

事例6 社会福祉協議会における社会的インパクト志向の 地域福祉活動計画策定プロセス

●主な事業主体、連携主体

本来、計画策定にあたっては、地域住民や地域団体、関係機関等多様な主体と連携し、社会課題を伝えながら共感を得て課題解決への参画を促す機会を提供するべきでありました。しかし、市の地域福祉計画との連動を図る中で、コロナ禍の影響によりタウンミーティングの実施が困難となり、急遽、一部の社会課題に関する説明動画を社協職員主体で作成し、意見徴収会を実施する対応を取りました。動画、エビデンスに加えて、当事者の現状をインタビューなどで収録し、生の声を届けることで、社会課題を我が事として感じることができる説明や情報を加え、興味・関心および共感を得るように工夫しました。

推進段階においては、企業や団体等から、社会課題解決への協力を得ることができました。

●現状、課題

これまでの伊賀市地域福祉活動計画(以下、計画)では、地域福祉を推進するための活動や事業等の「手段」を中心に据えており、手段が目的化されるケースも散見されました。また、社会課題の特定が不十分であったため、解決に最適な活動や事業の選定が必ずしも適切とは言い切れませんでした。

それらの要因として、①既存事業の業務改善や思い付きによる事業開発中心となる計画策定、②市民や企業等の共感や理解を得にくい構造、③多様な主体の十分な参画が確保されていない点、④社会課題解決にどれだけ寄与したかを計る評価指標が整備されていない点等の課題があげられます。そこでこれらの打開策として、第4次計画の策定では、社会的インパクト志向(実現したい目標)の計画づくりの導入を試みました。

インパクトゴールの作成においては、行政と相談しながら目標設定をし、市の施策(地域福祉計画)と連動した推進体制をめざしました。

●取組概要

計画策定では、市民の直面している地域生活課題から12の社会課題を設定し、各課題のエビデンスの洗い出しなどによる「①社会課題の明確化」、「②実現したい目標(社会的インパクト)の設定(図2)」、目標からバックキャストで解決策を考えるための「③ロジックモデル作成(図3)」、そこから5年間で実施すべき内容に関する「④計画への落とし込み」、「⑤評価方法設定」等の順で作成を行いました。また、ロジックモデル作成の時点で評価を意識して計画し、計画には評価指標の例も示しました。

●取組におけるポイント

ロジックモデルを計画策定に取り入れるためには職員のスキル向上が必要であり、職員約20名が5回(15時間)の全体研修のほか、社会課題別のロジックや動画作成アドバイザリーを受けるなど、一人当たり延べ100時間を超える膨大な作業量となり、非常に苦勞しました。

評価方法の設定では、ロジックモデル作成時点でインパクトゴールやアウトカム(社会に起こった変化)を評価しやすさを意識して設計しました。また、計画に予め評価指標の例を示すことで、社会の変化を測定しやすいように工夫しました。これらの評価結果をもとに、活動の改善や報告、広報などに活用しています。

計画の推進における評価指標は、参加者数やイベント開催数等の事業の直接的な結果(アウトプット)に重きを置く傾向にあります。社会や環境への変化を測る「アウトカム評価」も導入しました。その結果、事業単位でのミクロ視点における社会的インパクトを把握することが可能になりました。これにより、社会課題の解決につながる協働の実現や職員のモチベーション向上、寄付金増加による補助金減少のリスク軽減、社会資源開発時における「社会課題解決への有効性」を判断基準に追加するなどの効果が得られました。

●今後の展開について

ロジックモデルは、作成当初は時間と労力を要しますが、次期計画においては毎年の見直しで精度が向上したロジックモデルを確認しながら策定に臨むことができるため、業務量は軽減できるものと予測しています。しかし、次期計画策定までの5年間で早期に取り組むべき新たな生活課題も発生しており、新たなロジックモデルを策定する必要が出てきています。

社会課題解決に向けた対策事業の推進を通じ、地域社会の変化を意識した評価を進めているものの、実際にデータ抽出の段階で、社会的インパクトに結びつく変化を測る難しさに直面しており、アウトカム評価は依然として十分に機能していない状況にあります。また、地域全体や政策レベルでの支援を評価するマクロレベルの先行事例がなく、学習機会も不足しており、業務量も課題となっています。

計画が、社会課題解決のロードマップとして、地域や団体・企業・関係機関等、多様な主体と共にゴールに向けて取り組み、達成までの到達点を測れるように引き続き取り組んでいきます。

●本事例に関するお問い合わせ先

社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会

電話番号:0595-21-5866

メールアドレス:info@hanzou.or.jp